

胃癌予防とヘリコバクターピロリ菌

検診が普及し、死亡率が減少している胃癌ですが、死亡率はいまだに男性では3位、女性では5位と上位を占めています。自分で出来る胃癌予防、それは①塩分を控える、②酒を控える、③タバコを控える、④野菜を多く摂るといった誰でも出来る生活習慣の改善ですが、実践はなかなか難しいものです。

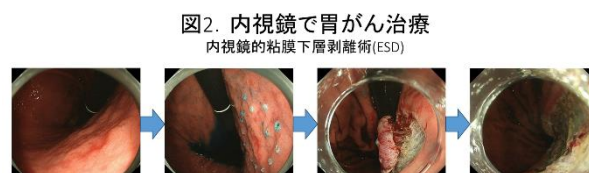
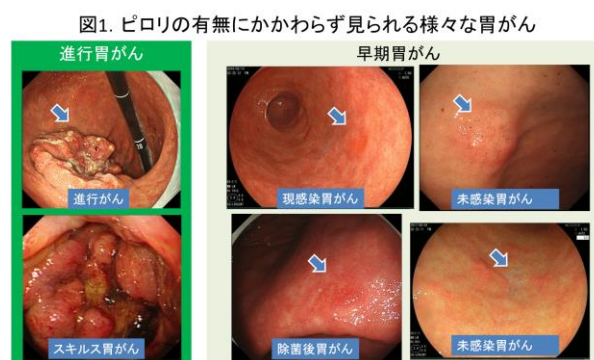
胃癌の原因は長らく不明でしたが、今から40年あまり前、エポックメイキングな出来事がありました。それはヘリコバクターピロリ菌（以下ピロリ菌）の発見です。ピロリ菌はバイ菌ですので、衛生状態の悪い生活環境で、親から子に感染していきます。5歳頃までに胃に感染し、その後ずっと胃の中に住み着いて、遂には胃癌を発生させるのです。

ピロリ菌の除菌治療により胃癌の発生は半減します。しかし、除菌しても将来の胃癌が100%予防できるわけではありません。したがって、除菌治療後も胃癌検診を継続して受診することが最も大切です。ピロリ菌は大人⇄大人はほとんど感染しませんので、一度除菌に成功すれば、再び感染するリスクは成人ではほとんどありません。ご安心ください。

胃癌検診と内視鏡治療

検診を受けるのは辛いですが、早期胃癌は自覚症状での診断は不可能です。だからこそ検診が必要なのです。

胃カメラでの胃癌検診では様々なタイプの胃癌が見つかります(図1)。近年、ピロリ菌と関係のない胃癌も知られるようになってきました。ごく早期の胃癌は病変部分だけを内視鏡で剥ぎ取る内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)で完治します(図2)。



経鼻内視鏡での胃がん検診

より苦痛の少ない内視鏡検査で病変を見つけることが内視鏡検診の課題です。内視鏡は、口から挿入すると嘔吐反射が起こりやすいのですが、鼻を麻酔して、鼻から細い内視鏡を挿入する「経鼻内視鏡」は、比較的楽に検査を受けられます（図3）。細径ですが経口内視鏡と同等の画質です（図4）。最新式の経鼻内視鏡は、けんぼプラザでの胃がん内視鏡検診で威力を発揮しています。

図3. 経口内視鏡: 直径約9mm(上)
経鼻内視鏡: 直径約5mm(下)



図4. 経鼻内視鏡(左)と経口内視鏡(右)の画像

